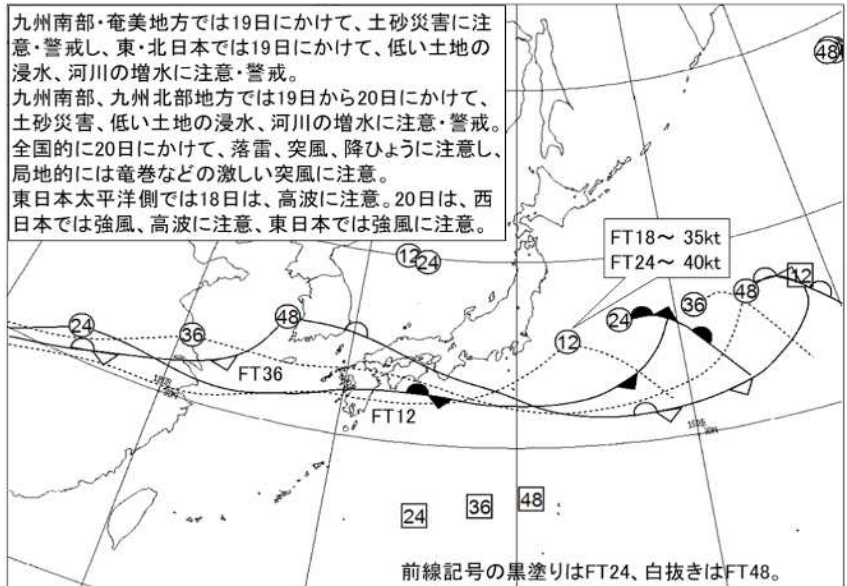


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応した前線上の低気圧が伊豆諸島近海を通過。トラフが先行し沿岸域の対流雲は不活発化した。九州付近では前線はほとんど停滞しており、東シナ海からの下層暖湿気の流れが続いている。09時鹿児島高層では925hPaで相当温位350Kを観測し、大気の状態が非常に不安定。周辺で連続的に発雷を検知し、非常に激しい雨を観測。
- ② 500hPa 5760m付近で-9℃以下の寒気を伴うトラフが日本海西部を東進。正渦度中心に地上でも低気圧を解析し、付近で発雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②の寒気を伴うトラフは、深まりながら19日朝にかけて西日本から東日本を通過するが、北日本では500hPa5700~5760mの正渦度帯がかかり、20日にかけて影響が残る。日本海の低気圧は、18日夜には上層と対応しなくなり、19日には次第に不明瞭化するが、この低気圧周辺や東側の高気圧との間を北上する下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定。西・東日本では19日にかけて、北日本では20日にかけて、落雷、突風、降ひょうや急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、局地的に激しい雨が降り、大雨となる所がある。東・北日本では19日にかけて低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。
- ② 500hPa5820m付近のトラフが進んでくる影響で、19日朝には前線上の華中で低気圧が発生し、20日には黄海から日本海へ進む。前線は、19日朝にかけては九州南部にほぼ停滞、その後20日にかけて西日本を北上する。低気圧や前線に向かって下層暖湿気の流れ込みが低気圧の接近とともに強まり、大気の状態が非常に不安定となり、非常に激しい雨が降って大雨となる範囲が西日本で拡大する。九州南部・奄美地方では19日にかけて、土砂災害に注意・警戒。九州南部、九州北部地方では19日から20日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。また、奄美地方では19日にかけて、西日本では20日にかけて、東日本では20日には、落雷、突風、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項①の低気圧周辺の強い風の影響が残り、東日本太平洋側では18日は、高波に注意。また、2項②の低気圧が進んでくる影響で20日は、西日本では強風、高波に注意、東日本では強風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間) : 九州南部・九州北部100mm。② 波浪(明日まで) : 伊豆諸島3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無

発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。